

令和6年度(2024年度)北海道真駒内養護学校 第3回 学校運営協議会 【議事録】

1 日 時 令和7年2月25日(火曜日)13時30分～15時00分

2 場 所 北海道真駒内養護学校 会議室

3 北海道真駒内養護学校 学校運営協議会委員

北條 俊介 様 (本校 PTA 会長)	高木 美穂 (校長)
菅原 哲雄 様 (真駒内東町町内会 会長)	篠田 佳寿 (副校長)
山名 常二 様 (澄川第九町内会会長 精進川美化・緑化の会 会長) ※欠席	奥田 裕幸 (教頭)
菊地ひとみ 様 (社会福祉法人 札幌肢体不自由福祉施設長)	黒沼 敬貴 (事務長)
戸倉 聡 様 (日之出歯科真駒内診療所 会長・診療部長) ※欠席	新海真由美 (主幹教諭)
高谷 亮介 様 (札幌市南区社会福祉協議会 事務局長)	
高橋 和明 様 (札幌大学教養学系 教授)	

4 【内 容】

(1) 授業参観 ＊高等部3年

(2) 説明 ＊資料に沿って説明

①後期(11月～2月)の事業報告

②令和6年度学校評価集計結果

③令和7年度学校経営計画(案)

④令和7年度の委員及び活動計画(案)

⑤学校から

・働き方改革の取組(学校だよりの配付他)

・その他のお知らせ(SB減便、エアコン設置、いじめ防止他)

(3) 熟議・・・今年度の取組に対する評価と次年度以降の改善について

(4) 情報提供 ＊資料に沿って説明

「令和6年度 友に学び、生きる共生社会コンファレンス in 北海道」

次年度における北海道教育委員会の取組について

北海道教育庁生涯学習推進局

社会教育課社会教育主事 川 崎 亜 蘭 氏



5 【熟議：今年度の取組に対する評価と次年度以降の改善について】

〈質問内容とその回答〉

- ・スクールバスの減便について、利用希望は無くなっていない。通学で困る人が出ないように考えてほしい。
→学校としても、保護者の不利益、通学保証の点から減便、廃止は断腸の思いではあるが、今回の決断となった。できるだけ児童生徒、保護者の負担が無いように考えていきたい。
- ・社会福祉協議会では、ボランティア育成も役割としてあり、学校行事等で積極的に活用してもらい学校理解につなげていけると良い。防災学校のような取組の継続が、地域(町内会)と学校との繋がりになっていくと思う。
- ・学校評価が保護者よりも教職員評価が低下となった背景で思い当たるところはあるのか？
→本校は長年教育活動(教育課程含)をあまり大きく変えずに、継続してきた取組が多い印象がある。職員の入替が毎年あるため、共通理解が十分に図られていないことが要因となっているのではないかと考える。
- ・次年度の経営方針について「心理的安全性」は、説明を受ける側の受け取りによって評価もバラついてくる。実際に学校を動かしていくのは先生方。一つの方角に全体を向けていくため、やる気に火をつけるためには、教職員に具体的に説明をしていくことが大事だと感じている。
- ・「協働」→協同『心と力を合わせる』ことが大事になる。取組を進めていく中には、学校全体から感じる安心感が教職員には大事になる。
- ・重点の一つに ICT とカリキュラムマネジメントがある。ICT については、従来のアナログ教材の提示からの ICT であることが大前提であると考えている。
→学校としても、ただ ICT を進めていくのではなく、児童生徒の実態等を丁寧に把握し、より効果的な ICT の活用となるように進めていくことが必要である。
- ・学校の取組には、様々な積み重ねがある。評価の上がり下がりばかりに目を向けず、積み上げていくことが大切だと思う。

6【情報提供:道の取組等について】

◇「令和6年度 共に学び、生きる共生社会コンファレンス in 北海道」の開催報告について

- ・当日は多くの方々に御参加いただき、用意した車いすが不足するほどの盛況となった。単なる「車椅子試乗体験」ではなく、日常生活に即した長時間の体験の提供により、合理的配慮について、より当事者目線で捉えることができた。
- ・今回旭川での取組は、特に特色のあるものとなり、オンライン参加者からも「ぜひ現地で体験したかった」との声が寄せられるなど、注目を受けた。

◇次年度の北海道教育委員会での本事業の取組について

- ・「共に学び、生きる共生社会コンファレンス」については、引き続き札幌市以外での開催を予定し、計画を進めている。詳細が決まり次第、案内をしていく。ぜひ参加をしていただきたい。
- ・コンファレンス以外では、特別支援学校等との連携を深め、様々な取組を実施する予定である。また、学校や PTA 等の研修会に講師を派遣することも可能なので、ぜひ活用してほしい。

◇道教委が目指す方向性について

- ・障がいの有無にかかわらず、全ての人が等しく学び続けられる「生涯学習社会の実現」「共生社会の実現」である。そのためには、行政、地域社会、民間などが理解を深め、一体となって、全ての人に対して、多様な学びの機会を提供できる受け皿を構築することが求められる。
- ・今後も真駒内養護学校をはじめ、特別支援学校と連携しながら、これらの取組を推進していく。これからも引き続き御理解と御協力をお願いしたい。

7 校長より

- ・今年度の成果と課題、次年度の学校教育活動について多くの御意見をいただけたと感じている。また道教委からの貴重な情報提供をいただくこともできた。
 - ・令和7年度も学校において、児童生徒、教職員にとってウェルビーイングが高まるよう、今後も皆様と一緒に取組を進めていければと思っている。
 - ・北條 PTA 会長には、たくさん学校を支えていただき感謝している。また、高橋先生には、4年間、本校の評議委員、運営協議委員をお願いしてきた。いつも学校への取組について、励ましの言葉をいただき、専門性の向上についても、様々な御示唆をいただいたことに感謝申し上げます。今後も本校のためにお力添えをいただきたい。
- 来年度も、引き続きよろしくお願いいたします。

